

和歌山工業高等専門学校
令和二年度卒業証書・修了証書・学位記授与式 式辞

本日、ここに、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご列席、あるいはご視聴をいただき、和歌山工業高等専門学校における令和二年度の卒業証書・修了証書・学位記授与式を挙行できますことは、誠に喜ばしい限りです。まずは、平素より皆様から賜っておりますご指導、ご支援に対し厚く御礼を申し上げます。

さて、本科の高度な教育課程を学び終えた152名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、専攻科で更に専門性の高い教育を受け、研究を続けてこられた22名の修了生の皆さん、修了おめでとうございます。長い階段を一段一段着実にのぼり、本日の良き日を迎えられました。皆さんの多くは、親元を離れて柑紀寮に入るところから和歌山高専での生活をスタートされたと思いますが、本日の卒業式に至るまでの間、とうとう強い意志をもって困難な勉学をやり遂げられました。大変立派なことだと思います。教職員を代表して、心からお祝いの言葉を送らせていただきます。

和歌山高専は、県内出身の学生だけでなく、県外出身の学生や、海外からの留学生を含めて、非常に幅広い地域から精鋭が集まって学ぶ国立の高等教育機関です。その和歌山高専において、皆さんは、先生方からの厳しい指導を受けながら、濃密なカリキュラムの学習や研究に取り組み、また、クラブ活動や寮生活などを通じて様々な友人や恩師と交わり、切磋琢磨してこられました。技術者や研究者としての基礎は間違いなく十分に身につけていると思います。これからは、和歌山高専の卒業生としての誇りと自信をもって、自ら技術者や研究者としての道を切り拓いていって下さい。皆さんのこれからの将来には、大きな可能性が開かれています。

一方で、和歌山高専で身に着けたことだけを後生大事に守るようなことはしないで下さい。皆さんを取り巻く社会環境は日々刻々と変化し続けています。情報化、国際化などの潮流は、その方向性が微妙に変わったり、また、遅くなったり早くなったりすることがあるかもしれませんが、決して止まることはありません。和歌山高専で学んだことを基礎としつつ、まずはそれぞれの置かれた立場で求められる役割に適応できるよう学んだことを的確に応用して下さい。その上で、幅広い分野に興味と関心を寄せ、将来求められると予想される新たな技術や技能を修得するなど、目前にはない課題をいち早く見出し、その課題に対応できるよう絶えず学び続けて下さい。「学校での勉強からやっと解放される」と感じているとすれば残念なお話ですが、勉強は生涯に亘って続けるべきものです。特に和歌山高専を卒業・修了できる皆さんのような優秀な人材にとっては、これは責務であるとさえ言えます。

皆さんの先輩は、卒業後も、技術者や研究者としてたゆみない努力を続けてこられました。その結果として、現在の和歌山高専の高い評価と信用が築かれているのだと思います。皆さんにも、きっとそうした先輩方に続いていただけるだろうと信じています。

最後になりますが、和歌山高専を巣立つ皆さんの進む道が、希望と発展の光輝く道となることを祈り、式辞の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございます。

令和三年三月十八日

和歌山工業高等専門学校長 北風 幸一